

山陰本線

豊岡・江原・城崎温泉駅

開業100周年

山陰本線豊岡駅(大手町)と江原駅(日高町日置)が、7月10日、開業100周年を迎え、両駅で記念行事が開催されました。また、城崎温泉駅(城崎町今津)も、9月5日、開業100周年を迎え、記念行事が開催されます。

その記念行事の様子と予定についてお知らせします。また、それぞれの駅の思い出を関係者の方々と共に振り返ります。

《問合せ》商工課 ☎23-4480



城崎温泉駅



江原駅

明治から平成へ： レールを走り続けて100年

明治42年（1909年）に豊岡・江原・城崎（現城崎温泉）駅がそれぞれ開設されると、鉄道の利用が活発になり、駅周辺は道路の整備も進み、多くの民家が集まり、交通と商業の中心となりました。鉄道と駅は、戦前・戦後を通じて、山陰地方の近代化に大きな役割を果たしてきました。

昭和40年代後半になると、

自動車の普及により、列車の利用客が減少していききました。そのような駅には、人それぞれの出会いや別れなど、さまざまな思い出があります。明治から平成へとレールを走り続けて100年。歴史を振り返りながら、あらためて鉄道と駅が、地域の社会・経済に果たす役割や、その存在意義を再認識してみたいかがでしょうか。

豊岡・江原・城崎温泉駅の主な年表

- ・明治42年（1909年）
 - ・7月10日 八鹿駅～豊岡駅開通
 - ・9月5日 豊岡駅～城崎駅開通
- ・昭和61年（1986年）
 - 福知山駅～城崎駅電化
- ・昭和62年（1987年）
 - 国鉄分割民营化により西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）が承継
- ・平成2年（1990年）
 - 豊岡駅～鳥取駅でワンマン運転開始
- ・平成13年（2001年）
 - 福知山駅～豊岡駅でワンマン運転開始
- ・平成17年（2005年）
 - 城崎駅の名称を城崎温泉駅に改称

駅の思い出

◆◆ 城崎温泉駅 ◆◆



▲鉄道開通時の駅舎



住田正明さん
(気比)

(西日本鉄道OB会豊岡支部会員)

駅を出ると温泉街が広がり、当時も待合室にはカニや土産を持つ観光客があふれ、駅前では各旅館の番頭さんがのぼり旗を持ってお客さんを迎えていました。これらの風景が、駅弁売りの「弁当ー、弁当ー」の声と共に懐かしく思い出されます。

◆◆ 江原駅 ◆◆



▲大正期の駅舎



河本匡弘さん
(日高町鶴岡)

(西日本鉄道OB会豊岡副支部長)

神鍋山スキー場の玄関口として、昭和32年、40年の冬季国体の開催後、スキーブームの到来で、昭和44年には、約34万人のスキー客が駅を利用しました。列車の窓を開けて荷物を出し入れしたことを思い出します。駅は、まちの発展を支えてきました。

◆◆ 豊岡駅 ◆◆



▲鉄道開通時の駅舎



平尾 巧さん
(出石町鍛冶屋)

(西日本鉄道OB会豊岡支部長)

今も残る給水塔でSLが給水。山積みのかばんの小荷物を時間内に列車に積み込み、大量の新聞が夜行列車で届く。ホームでは、新婚さんを紙テープやクラッカーで見送る姿。盆と正月はお金を入れる箱が帰省客の切符でいっぱい。次々と昨日のように思い出されます。